

(1) 本日の内容について、感想などございましたらお書きください。

1) 「在宅医療連携拠点事業の目的と拠点の役割について」

介護職・住環境コーディネーター

- とても勉強になりました。診療報酬も含めて充実すると良いですね。
- 役割を知ることにより明確にわかり、良いと思う。

介護支援専門員

- 真にできるとよいと思う。
- 地域性が近年根付いてきた。とても仕事が楽しくなってきた。
- 理解するのに時間がかかりそう。
- 在宅医療多職種で話し合う機会ができて勉強できました。
- 在宅の見取りのイメージを改めて確認できた。本人、家族、各関係機関にも特別ではない事を伝えていきたい。
- 在宅で医療と介護が協働して行っていくことがスムーズに進められるように努力していく必要がある。
- 拠点の役割が地域の人たちに認識されるようになれば在宅緩和ケアも増えるのではないのでしょうか？
- だいたいは理解できました。積極的にできることを取り組みたいと思います。もっと時間があれば良いと思いました。(イメージ出来ない事もある)
- 浦添地区で拠点事業転用は、個人として点でも少しでも関わっていけるよう今後、勉強したい。基盤の整備に向け連携は重要だと考えております。
- 沖縄は所得が低く施設に入れない方が増えていくと思われるので拠点を作り安心して自宅で家族が看ていくことが出来たら本人も喜ぶ、また医療費の軽減が図れ、良いと思う。
- 実際に仕事を行っている中で在宅生活を支える事には今後の在宅医療が重要であることは非常に感じている所です。浦添市がこんなに頑張っているのだと今日、感じて今後に期待ができるのかと嬉しく思いました。ちなみに私は那覇市ですがー。

看護師

- とても情報量が多く得した気分を持たせてくれる内容でした。
- 行政を含めた問題があり難しいと感じた。
- 総合病院に勤務しておりますが他職種の役割をよく理解していない事を今回の講義で理解した。
- 在宅移行に関して専門的知識を持つリーダーがどこに所属しておりどのように活用できるかが分かりづらかった。
- 在宅医療が求められる背景がわかった。今後、多職種と協力していかなければならないと再確認できた。
- 多職種連携研修会、初めての参加でとても勉強になりました。全ての職種がひとつになれば在宅生活を支えていけると感じます。浦添市から他行政へ繋げて欲しいと思います。
- 在宅診療だけでは限りがあるため、他の医療連携が必要と感じる。
- 知らなかった事が本日の研修で多く理解できた。

- 在宅医療のニーズに対して地域性というか生活のレベルが大きく関わっていて社会保障制度の行方が大きな不安材料になっている現実があります。医療にかかわる施設の規模により個人の関わり、連携が大きく変わり個人へのサポートが違ってきます。在宅チームの学びの場が必要です。
- 2025年は160万人を越え多死社会になる在宅看取りが、まだ少ない急性期治療が在宅へと見通して（・・・）役割、医療と介護の一体、在宅の状況を病院から見える方向性が理解できた。

社会福祉士・MSW・CSW

- 拠点を明確にすることで他職種連携を密にできるのでもっと積極的に事業をすすめて欲しい。
- 国のこの事業をもっと早く多くの人に伝えて早く地域の資源として活用できればと思います。
- 在宅医療連携拠点事業の全体像や現在の取り組みについて知ることができてよかったです。
- 分かれば分かる程、これから大変だと思います。
- やっぱり高齢社会への対応って待たないんだなあと思われました。
- 那覇市はネットワークが進んでいない現状があるので（実際に24時間動いている訪問診療医が少ない）浦添市を参考に拠点事業に取り組んでいけたらいいと思います。
- とても分かりやすいお話でした。医療、介護については閉じられた地域ではなく、周辺地域との連携協力が必須となります。拠心となって同じ地域に連携を進めていって欲しいです。
- 「救命より生活を支えることへのニーズ」いう医療の変化、社会情勢の流れを再確認できた。死に方や死に場所を選択できる世の中になって欲しい。
- 在宅での看取りの受容が高いが沖縄での対応は少ないということが分かり医療・介護・行政と連携をとり改善していけるように頑張っていきたいと思いました。

行政

- 在宅での看取りを希望する方が多いにも関わらず病院での見取りが依然として多い状況があるとは知っていたがここまで大きく差があるとは思わなかった。医療が高度に発展していく中、様々な疾患を抱えても延命できる状況がある。治療法が多くから選べるように看取りの場も自分で選択しそこで十分な医療が受けられることが当たり前になるには多職種の連携の必要性を強く感じた。
- 医療と介護の連携を進めていく必要性が県や各市町村からも行ってもらいたいと感じました。
- 在宅での医療を考えていく上で本人に関わる家族やそれを支える多様な職種間の連携が必要であることが大切だと感じた。
- 2025年問題に向けより多くの方が在宅で生活できる地域のシステム作りをしなければと今後の施策を検討していきたい。

作業療法士 理学療法士

- 生活の質を重視する医療を進める流れの中ですら連携拠点事業は有意義だと思う。

薬剤師

- 医療関係者が連携をとり、互の負担軽減に繋がりたい。
- 専門性を高めなければとやる気になった。
- 2005年問題が取り沙汰されていますか？薬剤師も遅れを取ることなく在宅に向けて関与していけるよう人的対策も含めて参画していきたいと思います。

- 進んでいる地域、業種には差等、問題あるが進んでいる所が進んでいない所をうまく引っ張っていく必要があると思った。
- 今後、在宅で関わる人が増えてくる事が理解出来た。
- このような機会があれば積極的に参加し在宅医療ネットワーク構築に協力しなければと感じた。
- 現状、国の方針が理解できて良かった。
- スムーズに看取りまでを自宅で行うために必要・協力と共有。
- 内容はよくテレビ、新聞でも見聞きする内容ではありましたが差し迫った話と改めて認識しました。

歯科医師

- 歯科医師としても積極的に取り組む必要性を感じた。
- 在宅医療拠点事業は多職種を結びつける大切な事業なので歯科医師もどんどん参加しますし、参加できるような環境作りをお願いします。
- 浦添市の在宅医療をより活発な連携が行われるよう期待します。(X・ん・)?
しっかりとした目的・役割をこのまま継続するだけでなく患者、利用者サイドだけでなく、医療側、行政側、連携する職種等、関わる人々が win・win になれるように発展できればと思います。
- 在宅医療が今後の主体への変わりつつあるとすれば医療関係者間の情報交換が出来る点では素らいことと考えます。その中で口腔ケア口腔リハへの取り組みが弱いので今後は歯科医師、歯科衛生士を含めた取り組みをお願いしたい。

医師

- 高齢化社会になることについて大変重要なことだとあらためて認識した。
- 大切であると思われたがどのようにやっているのか?
- 是非、南部地区ではなかなかむずかしい。
- 新しい事業ですので発展させて頂きたい。
- 目的・拠点の役割を明確にしてやっていく。
- 医師が行う以外の職種の報酬が低いとの指摘に驚いた。注意していなかった。
- 基本的で大事な知識が多く勉強になりました。
- 在宅医療について沖縄でとても遅れていることがわかった。
- 在宅拠点事業を成功させる為に医療保険制度、介護保険制度の改善が必要。

無記名

- 超高齢社会に向けての内容で本人の QOL を見据えたための対策ではないという印象を受けた。
- 数字や制度に関する事であまり馴染まない内容が多かったが早足での説明で正直、内容についていけなかった。